

第8期介護保険事業計画の進捗状況について

基本方針1 住み慣れた地域でお互いを支え合う地域共生社会づくり

第1節 地域包括支援センターの機能強化と地域共生社会の構築

○ 地域ケア会議の推進

包括ケア会議の開催回数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
1回	1 (書面送付)	1回	1回	1回	0回

地域ケア会議の開催回数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
36回	7回	36回	9回	36回	3回

地域ケア個別会議の開催回数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
12回	5回	12回	6回	12回	3回

【R5上半期自己評価等】

年度当初の計画どおり進められている。

地域ケア会議は、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが引き下げられたが、未だインフルエンザの感染者も多く、協議会の開催を見送る地域が多かったが、少人数での活動は実施できている。

○ 地域共生社会の実現に向けた取組

● 高齢者台帳の整備

【R5上半期自己評価等】

高齢者支援協議会を実施した5地域のうち、3地域の協議会から、独居世帯や認知症を患っている世帯等気になる高齢者の情報収集を行い、高齢者台帳の整備を行った。

●生活支援コーディネーターの配置

生活支援コーディネーターの配置数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
第1層（市全域）					
1人	1人	1人	1人	1人	1人
第2層（日常生活圏域）					
3人	3人	3人	0人	3人	2人

【R5上半期自己評価等】

生活支援コーディネーターを2名採用し、市内高齢者実態調査を定期的の実施できた。高齢者の困りごと把握やその地域の分析、社会資源の調査等に努めている。

第2節 認知症施策の総合的な推進

○ 認知症に関する理解促進

【R5上半期自己評価等】

一般住民向けや民生委員、金融機関の職員向けの認知症サポーター養成講座を各1回開催した。また、高齢者の通いの場での認知症に関する講話や予防に関する講話も希望に応じて実施している。

○ 早期発見・早期対応システムの充実

●認知症初期集中支援チームの設置

認知症初期集中支援チーム員会議の開催回数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
12回	10回	12回	10回	12回	6回

認知症初期集中支援チーム検討件数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
40件	25件	40件	23件	40件	15件

【R5上半期自己評価等】

認知症初期集中支援チーム員会議で、情報共有することで病院受診や介護保険申請にスムーズにつながるケースがあった。

● 認知症高齢者見守りネットワーク事業の推進

見守り台帳登録者数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
30人	26人	32人	23人	35人	6人

【R5上半期自己評価等】

登録者の見直しを行い、施設入所・長期入院・死亡に該当した方の抹消を行った結果、大幅に登録者数が減少した。認知症高齢者等の早期発見と保護、徘徊の予防等の支援を行うため、事業内容を居宅介護支援事業所・警察署・消防署へ周知及び情報共有を行った。

○ 認知症の方とその家族への支援

認知症カフェ参加者数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
250人	0人	280人	22人	300人	36人

【R5上半期自己評価等】

現在、認知症疾患医療センター主催で毎月定例日に開催している。認知症サポーターが協力し、小物づくりや紙芝居等季節に応じたレクリエーションや活動を展開している。巡回型認知症カフェの開催についても認知症地域支援推進員が中心となり、具体的に内容を検討していく。

○ 認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の方への支援

認知症サポーター養成講座の開催回数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
5回	2回	5回	0回	5回	3回

認知症サポーター登録者数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
2,150人	2,176人	2,200人	2,176人	2,250人	2,267人

キャラバンメイト登録者数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
18人	17人	19人	18人	20人	19人

【R5上半期自己評価等】

認知症サポーター養成は、目標を達成することができた。認知症サポーター受講者の活動が認知症カフェへの協力が主なものとなっている。今後、巡回型の認知症カフェ等でも協力をもらい、活動範囲を広げていけるよう取り組んでいく。

第3節 在宅医療・介護連携の推進

入退院支援、日常の療養支援、急変時の対応、看取り、認知症の対応力強化、感染症や災害時対応等、地域における在宅医療及び介護の提供に携わる者その他の関係者の連携を推進するための体制の整備を図る。

○ 地域住民への普及啓発

在宅医療に関する普及啓発活動回数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
1回	1回	1回	3回	1回	1回

【R5上半期自己評価等】

エンディングノート体験講座を1回開催し、元気なうちから最期をどう迎えたいかを大切な人と話し合うことの重要性について理解を深めてもらった。下半期では、成年後見制度や財産管理、在宅医療の実際についての講話を開催し、更に普及啓発に取り組んでいく。

○ 医療・介護関係者の研修

多職種連携研修会の実施回数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
2回	2回	2回	2回	2回	0回

【R5上半期自己評価等】

下半期に高齢者虐待についての研修会、認知症の方の意思決定支援についてグループワークや講話を開催予定である。在宅医療に係る関係者間の情報交換の機会についても検討を進めていく。

○ 医療・介護関係者の情報共有の支援

介護・医療合同会議の実施回数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
1回	1回	1回	2回	1回	1回

【R5上半期自己評価等】

種子島地域入退院支援調整ルール運用を確認するための運営会議が保健所主催で開催され、ルール運用の現状と課題等を共有した。下半期では、運用状況調査を実施する。

基本方針2 健康づくり・介護予防の推進

第4節 自立支援、介護予防・重度化防止への取組の推進

○ 介護予防・日常生活支援総合事業の推進

● 介護予防・生活支援サービス事業の充実

通所型サービス利用者数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
通所介護相当サービス					
700人	805人	750人	1,027人	800人	500人
通所型サービスA（緩和した基準によるサービス）					
1,350人	1,138人	1,400人	822人	1,450人	404人
通所型サービスC（短期集中予防サービス）					
100人	113人	100人	108人	100人	39人

【R5上半期自己評価等】

事業所数減により通所サービスAの利用者が減少し、相当サービスに移行している。地域主体活動へサービス利用者を誘導するため、サービス内容変更の際ケアマネの更なる介入を要する。

訪問型サービス利用者数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
訪問介護相当サービス					
820人	769人	900人	736人	980人	368人
訪問型サービスC（短期集中予防サービス）					
1人	2人	1人	0人	1人	0人

【R5上半期自己評価等】

訪問介護相当サービスは事業所数減、人材不足により利用者数は目標達成には至っていない。補助事業を活用しながら人材確保の環境整備に努める。

● 一般介護予防事業の充実

◆ 自立支援・介護予防に関する普及啓発

【R5上半期自己評価等】

65歳から75歳までの前期高齢者へ介護予防の重要性を理解してもらうため、体力測定会を実施し、普及啓発に取り組んでいるが、参加者が少ないため、周知方法や実施場所に工夫が必要と感じている。

「種子島スタディ事業」は、11月頃から再開できるよう鹿児島大学病院と日程調整中である。

◆地域介護予防活動支援

【R5上半期自己評価等】

様々な関係機関に協力を仰ぎ、講師派遣の内容充実を図ることでこれまで希望のなかった地域からも講師派遣の希望があがってきており、日程調整しながら、講師派遣の調整を行っている。また、支援者向けの定期的な研修を開催することで、支援者の士気を高めている。

◆介護予防把握

【R5上半期自己評価等】

訪問看護師と生活支援コーディネーターが個別訪問し、生活機能の低下が見られる方の早期発見、生活上で悩みを抱える方を適切な関係機関につなげたり、見守り体制の強化につなげることができた。

◆地域リハビリテーション活動支援

【R5上半期自己評価等】

地域ケア個別会議での助言者や地域サロンの講師として、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等から協力を得られた。下半期では、総合事業受託事業所への訪問等で専門的な助言ができるように調整していく。

○ 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施

【R5上半期自己評価等】

今年度から本格的に事業として取り組めた。地域サロンの希望に応じて、保健事業と連携し、生活習慣病予防に関連する講話やフレイル予防について各専門職が講話を実施した。

○ リハビリテーションサービス提供体制構築のための取組

【R5上半期自己評価等】

・県と連携を図りながら、引き続き、KDBデータや「見える化システム」等のデータを活用し、本市の現状とニーズについて把握を行っていく。

基本方針3 安心安全に暮らせる生活環境の整備

第5節 日常生活を支援する体制の整備

○ 在宅生活を支援するサービスの充実

通報装置設置台数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
100台	81台	110台	74台	120台	72台

【R5上半期自己評価等】

通報装置の広報を、ケアマネの研修会や、上半期はわずかだったが高齢者支援協議会でを行った。高齢者の集まる機会での広報に努めなければならない。

住宅改修に係る理由書作成助成の申請件数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
10件	2件	10件	1件	10件	1件

【R5上半期自己評価等】

居宅介護支援を受けていない在宅の要介護（要支援者）に対して、ケアマネジャー等が住宅改修理由書を作成する業務に対して行う助成事業であるが、上半期は申請が1件と少なかった。在宅支援体制づくりの一環として継続していく。

○ 家族介護者への支援

● 介護に係る経済的負担の軽減

介護手当支給人数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
105人	93人	110人	74人	115人	68人

【R5上半期自己評価等】

令和5年度から申請書に介護量の記入欄を追加することで、介護手当の支給が実態に応じて適正に行えた。

紙おむつ支給人数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
510人	478人	530人	500人	550人	424人

【R5上半期自己評価等】

紙おむつ支給事業（一般財源）については、上半期では国からの通知等は無かったため下半期の国の動向を注視しながら適宜検討をしていく必要がある。また、毎月の申請件数が増加していることから事業のニーズは大きいと考える。

○ 高齢者の虐待防止と権利擁護の取組の推進

● 高齢者虐待に関する相談・支援

【R5上半期自己評価等】

昨年度から継続的に関りがある案件に関して、県や関係機関と協力し、終結に向けた介入支援に取り組んでいる。上半期は養護者からの虐待案件が数件あり、必要時のコアメンバー会議の開催で速やかに対応している。今後も引き続き、市民や各サービス事業所に向けた周知を継続し、高齢者虐待の対応への理解促進のために研修会やマニュアルの見直し・作成等を進めていきたい。

● 成年後見制度の周知・利用促進

【R5上半期自己評価等】

上半期は、市長申立ての相談ではなく、親族申立てによる利用促進・相談支援が2件あった。本人・親族を交えて関係機関との検討会議を踏まえ、弁護士の専門的視点から助言をもらいながら、制度利用への必要性を判断することができた。

● 権利擁護支援体制の整備

【R5上半期自己評価等】

各事業所には相談窓口としての周知はされ、相談も数件あった。市民に関しては、認知症高齢者や精神・知的障害者自身からの相談は難しく、周囲の地域住民からの発見・情報共有が必要となってくる。地域サロンや講習会等、地域活動の場で周知・啓発していく必要がある。高齢・障害の共生的支援が必要なケースがあるため、社会福祉係との連携が重要になってくる。

基本方針4 高齢者や家族が健やかで生きがいに満ちたライフスタイルの確立

第6節 生きがいつくりや社会参加の促進

○ 社会参加の促進と活動機会の充実

● 地域貢献・交流活動への参加促進

高齢者元気度アップ地域活性化事業登録団体数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
130団体	134団体	140団体	123団体	140団体	124団体

高齢者元気度アップ地域活性化事業登録人数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
3,100人	3,194人	3,200人	3,033人	3,200人	2,858人

地域サロンの実施箇所数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
53か所	49か所	55か所	51か所	57か所	42か所

よろ〜て元気アップ教室の実施箇所数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
52か所	52か所	52か所	53か所	52か所	53か所

元気アップ教室に参加する高齢者の数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
780人	895人	800人	845人	820人	845人

いきいき遊湯クラブ実施回数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
110回	28回	120回	27回	130回	5回

遊湯バス利用者数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
1,300人	160人	1,310人	374人	1,320人	37人

【R5上半期自己評価等】

介護予防・引きこもり予防のために実施しているいきいき遊湯クラブ以外の事業は予定どおり実施できている。
いきいき遊湯クラブは利用者が固定化し減少している。

○ 地域における支援者の人材確保・育成

● 高齢者支援協議会の設置推進

高齢者支援協議会開催回数（校区・地域）

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
36回	7回	36回	9回	36回	3回

【R5上半期自己評価等】

新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが引き下げられたが、未だインフルエンザの感染者も多く、協議会の開催を見送る地域が多かった。
協議会の開催は見送っているが、集まる機会を自粛しているだけで少人数での高齢者見守り活動は行われている。

● 支援者・地域支え合い推進員の育成・研修の充実

介護予防サポーター養成講座の実施回数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
3回	0回	3回	0回	3回	3回

【R5上半期自己評価等】

目標通り支援者等研修会を実施できた。介護予防体操、熱中症対策等多様な研修を行い、地域活動の一助となっている。

○ 元気高齢者の活躍できる場の確保・就労の促進

● シルバー人材センターの活動支援

【R5上半期自己評価等】

シルバー人材センターの活動支援として、補助金を交付し高齢者が能力の活用ができるよう環境整備に努めた。
就労的活動支援コーディネーターの配置の検討として、ハローワークと情報交換のための協議を行った。高齢者支援協議会等、高齢者の集まる機会が必要調査を行う必要がある。

基本方針5 介護福祉サービスの充実と安定した提供体制の確保

第7節 介護サービス提供基盤の確保・充実

○ サービス提供基盤の整備

地域密着型通所介護事業所数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
11事業所	11事業所	11事業所	11事業所	11事業所	10事業所

○ 介護人材の確保及び資質の向上

● 事業者の人材確保・育成に対する支援

魅力発信の取組

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
1回	0回	1回	0回	1回	0回

移住相談会場での就業相談者数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
3人	0人	3人	0人	3人	0回

【R5上半期自己評価等】

県や介護事業所等と連携した魅力発信の取組については、種子島地区福祉人材確保対策協議会において、県や1市2町の行政、関係事業所の取組状況や課題を共有し、本年度内に、種子島の福祉・医療・介護事業所の紹介とともに、地域の魅力を発信するためのパンフレットを作成し、島内外からの人材確保の取り組みを行うこととした。また、新たな取り組みとして、西之表市介護人材確保事業を実施している。資格を有し市内の介護事業所に就業した者に対し、9月末時点で9人に奨励金を交付した。

● 介護スタッフの専門性向上に向けた研修

ケアマネジメント業務研修会

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
2回	3回	2回	11回	2回	11回

【R5上半期自己評価等】

居宅介護支援専門員のスキルアップを目的として外部講師による令和5年度ケアマネジメント業務研修会（令和5年8月25日）を実施した。

研修内容「対人援助のための合同ケースカンファレンスの方法～利用者本位、自己選択、自己決定の時代のチームアプローチ～」

○ 介護事業所の適正運営に向けた取組

実地指導（居宅介護支援事業所・地域密着型事業所）

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
2回	2回	2回	2回	2回	0回

【R5上半期自己評価等】

令和5年10月に実施予定。（地域密着型事業所、居宅介護支援事業所）
ケアマネジメント資料の事前提出により、実地指導訪問時の個別支援計画書の確認等の時間短縮と指導の効率化を図る。

集団指導（居宅介護支援事業所・地域密着型事業所）

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
2回	1回	2回	1回	2回	1回

【R5上半期自己評価等】

令和5年9月1日に集合形式により実施した。BCP策定や虐待防止のための対応等、令和5年度末までの時限措置となっている各取組事項について、市内の事業所の実施状況についてアンケートを行い、その結果を公表したことで、来年度からの義務化を意識づけしてもらう機会とすることができた。

第8節 介護保険事業の適正な運営

○ 介護保険給付の適正化

◆要介護認定の適正化

要介護認定における重度変更率の平準化

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
8.7%	10.2%	8.0%	12.7%	7.4%	14.0%

【R5上半期自己評価等】

重度変更率は14.0%と目標値を大幅に下回っている。業務分析データ等の活用や研修会へ参加し、適正かつ公平な認定が行われるよう標準化を図る。また、eラーニングによる自主研修を行った。引き続きeラーニングの推奨を行い、認定調査の課題を共有するとともに質の向上に努める。

◆ケアプラン点検

ケアプラン点検数

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
36件	10件	36件	27件	36件	0件

【R5上半期自己評価等】

令和5年度上半期は未実施。今年度も高齢者向け住まい等サービス付き高齢者向け住宅等居住者のケアプラン点検等を実施する予定。「入居者のニーズを超えた過剰なサービス」を位置づけていないか、ケアプランの内容が入居者の自立支援や重度化防止等につながっているかの観点からの点検・検証を行う。

◆住宅改修の点検

施工前現地確認

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
100%	100%	100%	100%	100%	100%

【R5上半期自己評価等】

改修前に工事の内容や必要性を確認し、利用者の状態像に合わない不要な改修や給付の対象外となる改修工事を未然に防ぐため、全数訪問調査を行っている。

現地確認件数（R5.4月～9月末） 30件中、30件

リハビリテーション専門職による点検

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
10%	50%	10%	61%	10%	56%

【R5上半期自己評価等】

R4年度末に居宅介護支援専門員に向けて住宅改修の現地確認の際に日常のサービスで関与があるリハビリテーション専門職がいる場合は、事前の情報提供や当日の立ち合い勧奨を行った。徐々にリハビリテーション専門職が住宅改修に係れる体制構築が行えている。

現地確認件数（R5.4月～9月末） 30件中、17件

◆福祉用具購入・貸与の点検

福祉用具の購入・貸与訪問調査

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
24件	24件	24件	13件	24件	0件

【R5上半期自己評価等】

上半期は未実施。要介護度と日常生活自立度に注目して、事前に点検対象者の抽出を行い、別途調査期間を設定し年度内に実施する。

◆縦覧点検

縦覧点検分析結果を実地指導に活用

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
2回	0回	2回	2回	2回	0回

【R5上半期自己評価等】

今年度も国保連合会へ業務委託により実施。10月に予定している運営指導や適正化事業に活用していく。支援帳票である「要介護認定有効期間の半数を超える短期入所受給者一覧表」については毎月確認を行い、短期入所の利用日数が多くなっている被保険者を把握し、担当ケアマネジャーに理由書の提出を求めている。

◆医療情報との突合

医療費情報突合リストによる点検

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
100%	100%	100%	100%	100%	100%

【R5上半期自己評価等】

国保連合会の審査情報（医療給付情報突合リスト）を使い、医療保険担当課のレセプト点検係と連携して、医療保険と介護保険の両制度の給付が重複したり、同時には成立し得ない不当請求等の確認作業を毎月実施し過誤発見に努めている。

◆介護給付費通知

リーフレット等を活用した効果的な通知

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
4回	3回	4回	3回	4回	1回

【R5上半期自己評価等】

介護給付費通知書の発送に合わせて、重症化予防と介護予防の啓発のためのリーフレットを同封した。

介護給付費通知書の発送時のリーフレット

(7月14日)「足腰が衰えない生活の工夫を」自宅で出来る健康づくりに関する内容

◆給付実績の活用

適正化事業に関する検証作業への活用

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
6回	5回	6回	12回	6回	6回

【R5上半期自己評価等】

「厚生労働大臣が定める回数以上の訪問介護（生活援助中心型）実績一覧表」を毎月確認し、不適切な介護サービスの利用に繋がるケアプランが無いか確認を行うため、担当ケアマネジャーに理由書の提出を求め適正利用を促した。

◆適正化事業の体制強化

見える化システムを活用した地域間分析

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
1回	1回	1回	1回	1回	0回

【R5上半期自己評価等】

年度末までに分析結果をホームページ等で公表する予定。

◆口腔ケアの取組

口腔ケアマネジメントに関する研修

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
1回	1回	1回	1回	1回	0回

【R5上半期自己評価等】

上半期は未実施。年度内に実施する予定。

口腔体操の普及（元気アップ教室実施全団体）

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
17団体	10団体	35団体	18団体	52団体	21団体

【R5上半期自己評価等】

上半期は、口腔体操の講師である歯科衛生士とよつばの会、地域のスケジュール調整がうまくいかない場合や地域の都合によるキャンセルなどがあり、3団体のみとなった。下半期は、早めに日程調整等を行い目標値に近づけるようにすすめる。

○ 円滑な運営のための体制づくり

●介護保険制度の周知・積極的な情報提供

【R5上半期自己評価等】

介護保険制度の周知、積極的な情報提供を行うため、介護保険利用の手引きリーフレット「わたしたちの介護保険」見直しを行い、窓口業務での活用等での活用を行った。

●PDCA サイクルの確立による効果的な事業運営

取組に対する目標達成状況の公表（HP）

R 3		R 4		R 5	
目標	実績	目標	実績	目標	上半期
2回	1回	2回	2回	2回	1回

【R5上半期自己評価等】

「自立支援、介護予防又は重度化防止及び介護給付の適正化に関する取組と目標に関する自己評価シート」により、第8期計画の二か年目となる令和4年度における事業の進捗や達成度について自己評価を行い、結果を市ホームページに掲載した。